

上町地区の課題と取り組み

課題1 近隣の安否確認

■現状（意見）

- ・災害時に安否確認をしたくても、近所の人顔がわからない。
- ・集合住宅内でも、同じ集合住宅内の人顔がわからない。
（隣にどんな人が住んでいるのかわからないこともある。）

その他の意見

- ・回覧や掲示板で呼びかけても、参加者は決まった人ばかりで新たな顔見知りや知識習得者が増えない。
- ・転入してきた人にどのように防災事業に参加してもらえるか悩んでいる。
- ・個人情報への配慮が難しい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①日頃から地域のつながりを持てる機会を設ける。
- ②災害時の安否確認のルールを決めておく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

【町会】

- ・災害時に安否確認が終わった家に無事かどうかの表示をするための表示物を町会で統一して作成し、町会員に配布する。
→ハンカチや旗、または色分けしたカード（青：大丈夫、赤：助けて）等
- ・町会ごとに無事が確認できない家の情報を集める場所を決めておく。
（町会会館、避難所など）

その他の意見

- ・防災塾のようなものを町会または番地ごとにおこなう。
- ・みんなが参加しやすいイベントを考え、声かけをし、参加者には防災関連の啓発物品を配布し、防災への意識付けをする。
- ・被害想定を具現化した訓練を実施する。
- ・実際の避難ルートを歩く、防災倉庫の資機材を用いるなどして、より身近な町会の中で実践に近い訓練をおこなう。
- ・新しく越してきた人などに定期的に声かけをして、町会に加入してもらう。
- ・定期的な町会名簿作成によって、新規や未確認の町会員の把握をする。

【学校】

- ・保護者は子どもを介して顔見知りになっておく。

その他の意見

- ・防災塾のようなものをクラスごとにおこなう。

【商店街】

- ・地域にどのように貢献できるかを考える。

その他の意見

- ・参加しやすいイベントを考え、参加者には防災関連の啓発物品を配布し、防災への意識付けをする。

【集合住宅】

- 町会に協力してもらい、共同で防災事業をおこなう。
- 消防署や防災の知識を持つ人を呼び、集合住宅ごとに防災訓練をおこなう。
- 集合住宅ごとに住民名簿（プライバシーに配慮しつつ、名前や世帯人数だけでも）を作成する。
- 集合住宅については、年度当初だけでも顔合わせ（少人数集合住宅なら建物全体、大型集合住宅なら各階ごと）をおこなう。
- 災害前に集合住宅内の動きについて話し合っておく。

【その他】

（災害前）

- 近所で会ったときに積極的に声をかける。
- 平常時の外出時間帯と在宅時間帯を教えあう。
- （プライバシー関与に支障のない範囲で）隣家の日中・夜間の在宅時の居場所を把握する。
- 連絡先の交換をして、平常時も災害時も連絡を取れるようにしておく。

（災害後）

- 自分で近隣の家を見てまわる。
→回覧板の同じ区画の家を見てまわる。
- 自分から近所に自分の安否を知らせる。
→まず親しくしている人の家を訪ね、一緒にその隣家を訪ねる。

■その時あなたは、どうしますか？

- 町会で安全確認のために旗などを会員に配る。
- 近所の人顔がわかるようこちらから声をかけるよう心がける。
- 小学校の地区班と地域の方の交流。
- 地域の方と保護者が一緒に通学路の旗振りをする。
- 学校では、保護者同士の親睦を深めて、いざというときに協力しあえるようにする。
- 秋祭り、9月に天祖祭りがあるので、手伝っていただきながら顔見知りになる。
- 商店会、7月のホタルさぎ草祭りに参加されて顔見知りになる。
- 災害後の集合住宅の場合、隣家のドアを叩いているかいないかだけを確認する。
- 近所の人と立ち話をする。
- 日頃から出来るだけ声を掛ける様にしている。

その他の意見

町会関連

- 町会勧誘のチラシの作成。
- 回覧板以外で町会のイベントを広く広報する。
- 引っ越してきたお宅を訪ねて町会に勧誘する。
- 町会で若い人も参加できる楽しいイベントを企画する。
- すべての家が町会に加入する。
- 防災事業参加の呼びかけで回覧板以外の何か新しい方法を考える。
- 町会に加入してもらうために、加入したらどのようなメリットがあるかを訴える（特に防災関連で）
- 町会に未加入の家の確認。名前、顔を知る。
- 各組、班ごとの住宅地図の完備。（個人情報の扱いに配慮する）
- マンション所有者は必ず住民の名簿を提出する。

学校関連

- どのように動くか教職員に周知徹底する。

その他

- 災害時、地域の中高大学生の力を借りる。
- 東京農大学生との連携（陸上部）
- 私学の避難所の活用